

2025年12月期 決算説明資料

株式会社イーエムネットジャパン
2026年3月31日

CONTENTS

01

エグゼクティブサマリー

02

決算概要

03

KPI

04

2026年12月期
業績予想について

01

エグゼクティブサマリー

エグゼクティブサマリー：2025年12月期

営業収益（売上高）

15.94億円

前期比+2.65億円(19.9%)の増収

営業利益

1.55億円

前期比+0.62億円(67.3%)の増益

当期純損失

△4.49億円

不祥事関連費用及び投資有価証券評価損計上により

前期比△4.62億円の減益

注)2024年12月期は決算訂正を行い、2026年3月31日に訂正報告書を提出しております

02

決算概要

前期比

全事業で増収増益も、不祥事関連費用および投資有価証券評価損の計上により当期純損失を計上

前期比				
(百万円)	2024年12月期	2025年12月期	増減	増減率
営業収益（売上高）	1,329	1,594	265	19.9%
営業利益	93	155	62	67.3%
経常利益	104	180	76	73.2%
当期純利益 (△当期純損失)	12	△449	△462	-

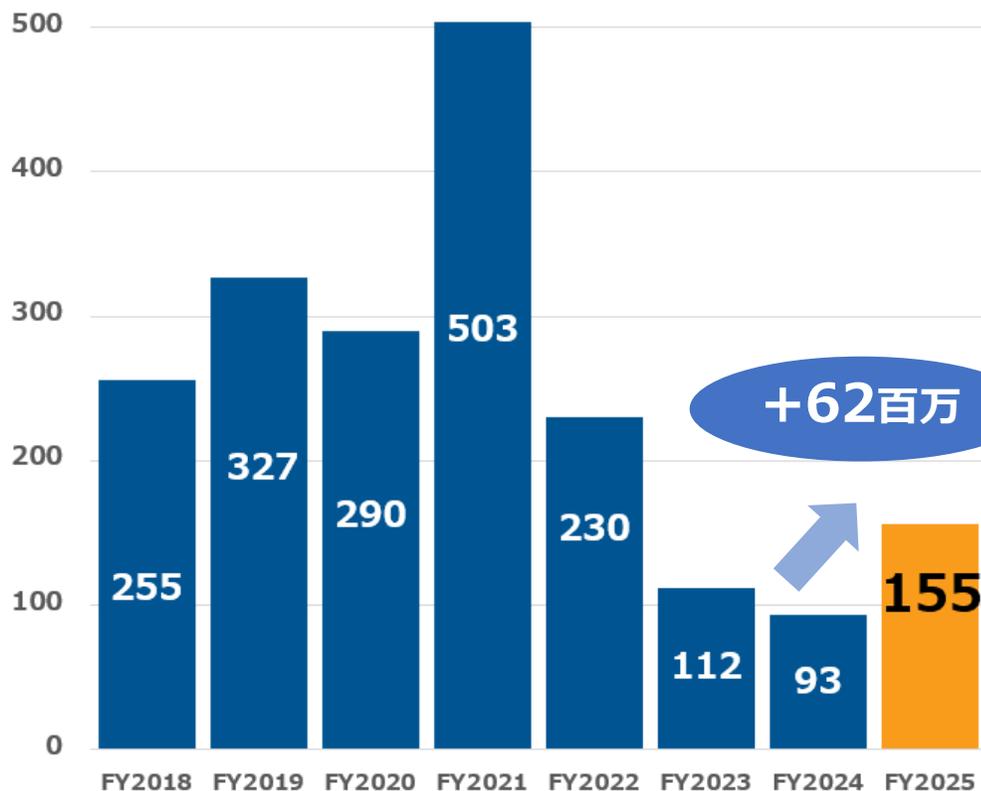
注)2024年12月期は決算訂正を行い、2026年3月31日に訂正報告書を提出しております

営業利益（年間、四半期(3カ月)の業績推移）

対前年比で+62百万円の増益となったものの、第4四半期(10-12月3カ月)は、前期賞与減額の反動により前年同四半期比△52百万円

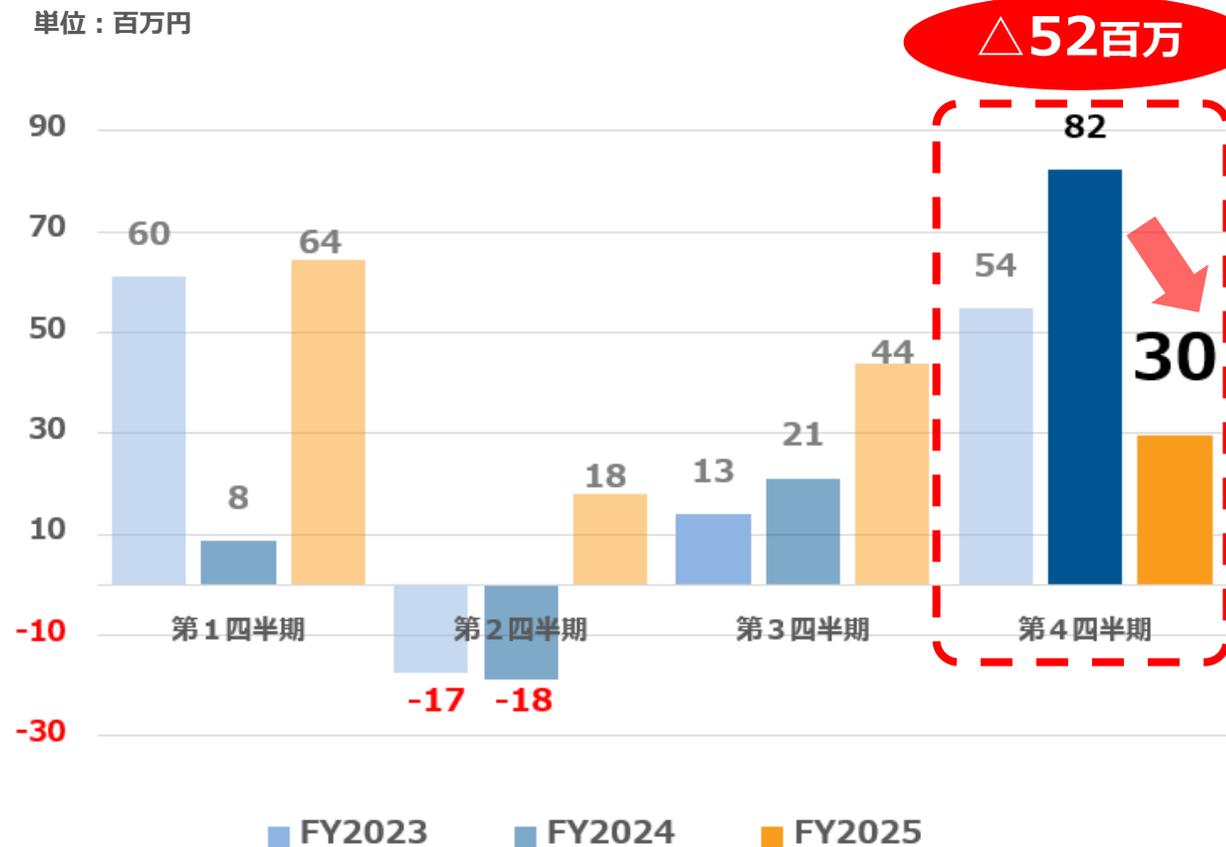
営業利益 推移

単位：百万円



四半期営業利益比較（各3カ月間）

単位：百万円



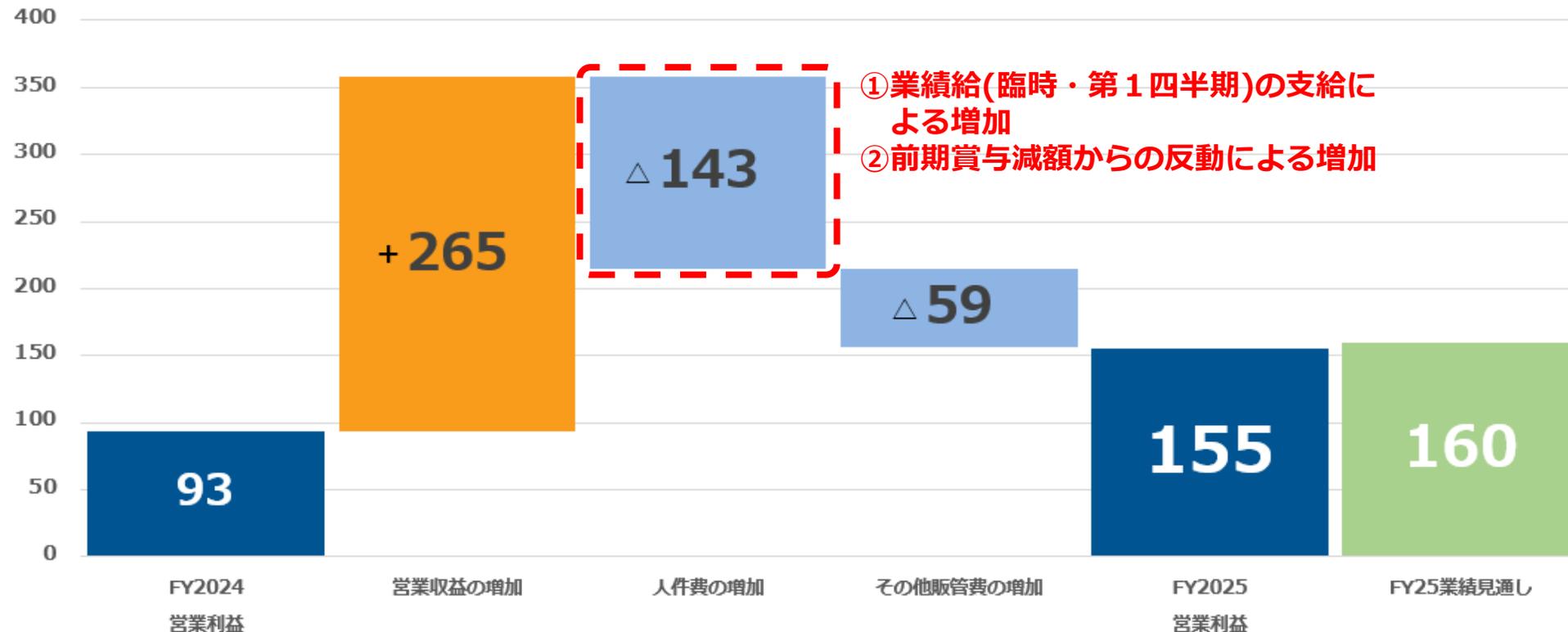
注)2023年12月期、2024年12月期は決算訂正を行い、2026年3月31日に訂正報告書を提出しております

営業利益の増減要因（前期比）

人件費増加を上回る営業収益の増収により、対前年比+62百万（67.3%）の増益を達成

営業利益 増減要因分析（前期比）

単位：百万円



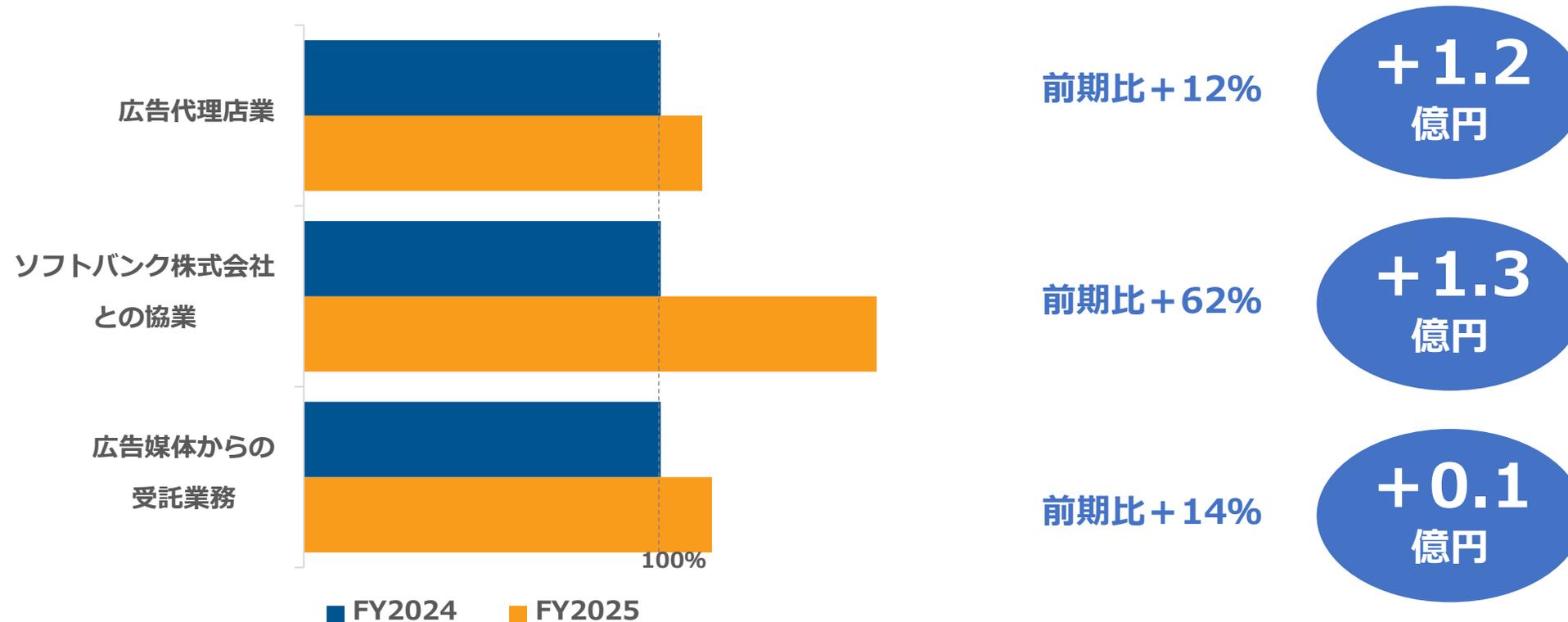
- ①業績給(臨時・第1四半期)の支給による増加
- ②前期賞与減額からの反動による増加

注)2024年12月期は決算訂正を行い、2026年3月31日に訂正報告書を提出しております

事業別の営業収益（前期比）

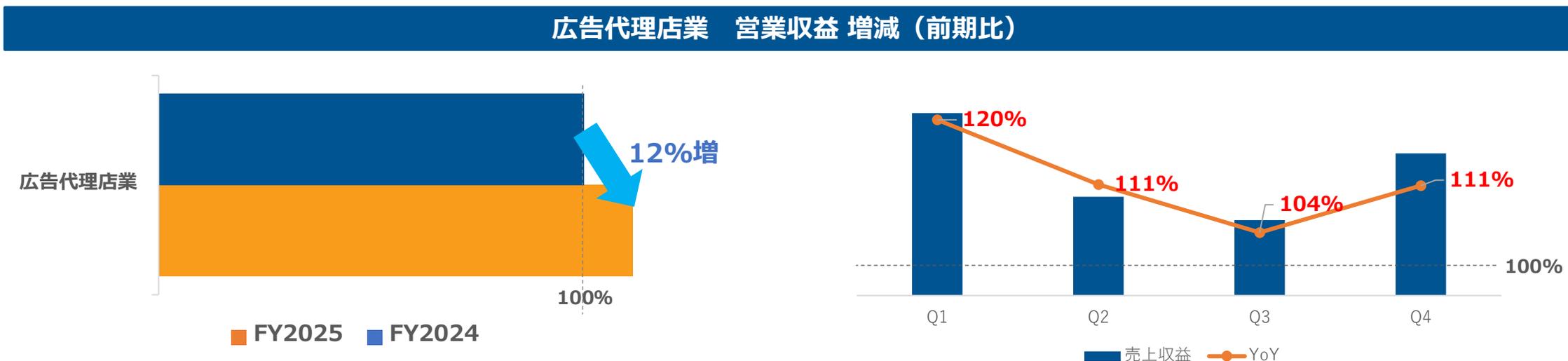
全事業で増収となり、全社で前期比で2.65億円（19.9%）の増収

事業別の営業収益 増減（前期比）



事業別営業収益の増減（広告代理店業）

新規案件の獲得及び既存案件の広告予算拡大により、前期比12%の増収



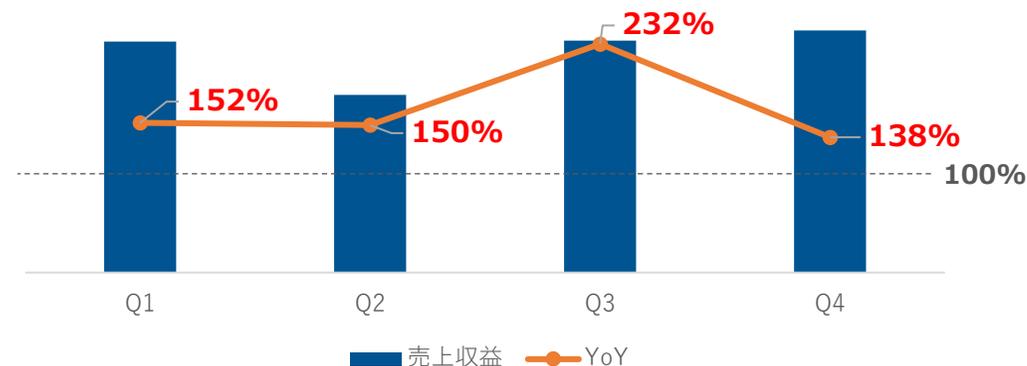
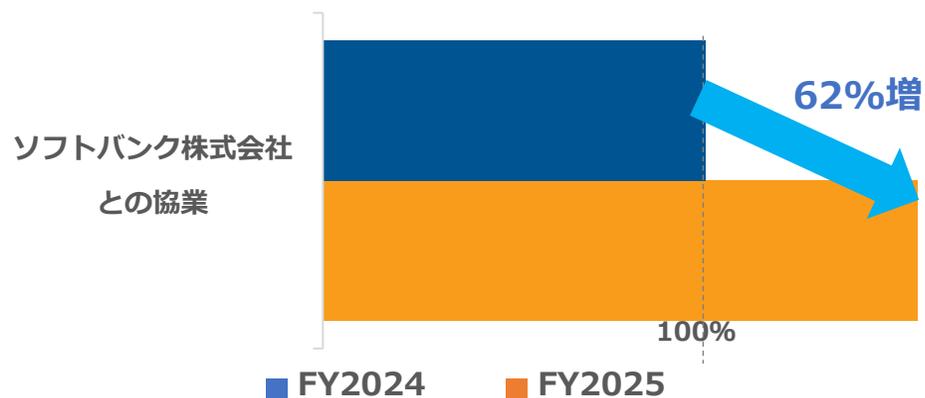
FY25 概況

- ✓ 毎四半期で前年同期比で増収となった結果、通期で前期比+12%の増収で着地
- ✓ 上期(1-6月)は前年同期比+16%の増収、下期(7-12月)は前年同期比+8%の増収
- ✓ 新規案件の獲得は、上期で受注した大型案件が全体を大きく牽引し、通期での前期比増収を達成
- ✓ 既存案件の予算拡大は、毎四半期で前年同期比で増収の結果、通期での前期比増収を達成

事業別営業収益の増減（ソフトバンク株式会社との協業）

新規案件受注や既存案件での広告予算増加により、前期比62%の増収

ソフトバンク株式会社との協業 営業収益 増減（前期比）



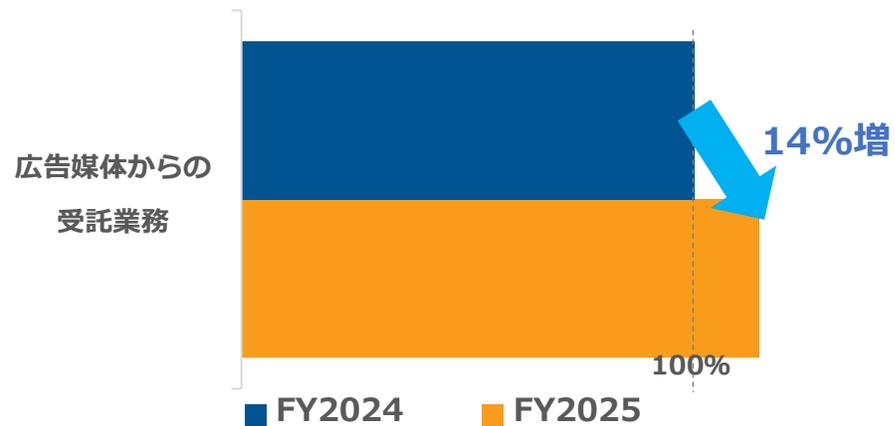
FY25 概況

- ✓ 協業拡大が通期に渡って順調に進んでおり、通期では前期比+62%の増収
- ✓ 上期は、前年の営業体制強化による継続的な営業活動と発展により、大型広告主のリプレイス・新規案件開拓が増加し、前年上期比+51%の増益
- ✓ 下期は大型広告主の増額と離反防止体制強化により前年比+72%の増益

事業別営業収益の増減（広告媒体からの受託業務）

Q2以外は前年同期比で増収となり、通期で前年比14%増収

広告媒体からの受託業務 営業収益 増減（前期比）



FY25 概況

- ✓ 通期では前期比+14%の増収で着地
- ✓ Q2単体では前期比96%で減収だったものの、年間を通して安定した売上収益で推移
- ✓ 今後も前期と同水準の営業収益で推移する見通し

特別損益

2025年12月期に不祥事関連費用として貸倒引当金及び訂正関連費用引当金、並びに投資有価証券評価損△6.4億円を特別損失にを計上

単位：百万円

	FY2024	FY2025
特別利益	2,658	18,976
新株予約権戻入益	2,658	-
役員退職慰労引当金戻入額	-	18,976
特別損失	△63,247	△642,421
貸倒引当金繰入額	△63,247	△298,274
訂正関連費用引当金繰入額	-	△156,890
投資有価証券評価損	-	△187,257
ゴルフ会員権評価損	-	-
特別損益 合計	△60,589	△623,445

注)2024年12月期は決算訂正を行い、2026年3月31日に訂正報告書を提出しております

貸借対照表

不祥事関連費用、投資有価証券評価損の計上により純資産は減少するものの、借入金ゼロ、自己資本比率33.3%と引き続き財務安全性を維持

(百万円)	2024	2025	前期末比
流動資産	2,114	1,830	△284
内 現預金	897	567	△330
固定資産	527	504	△23
資産合計	2,641	2,334	△307
流動負債	1,126	1,383	+257
固定負債	173	175	+2
負債合計	1,299	1,588	+289
純資産	1,342	776	△566
負債・純資産合計	2,641	2,334	△307
(自己資本比率)	50.8%	33.3%	

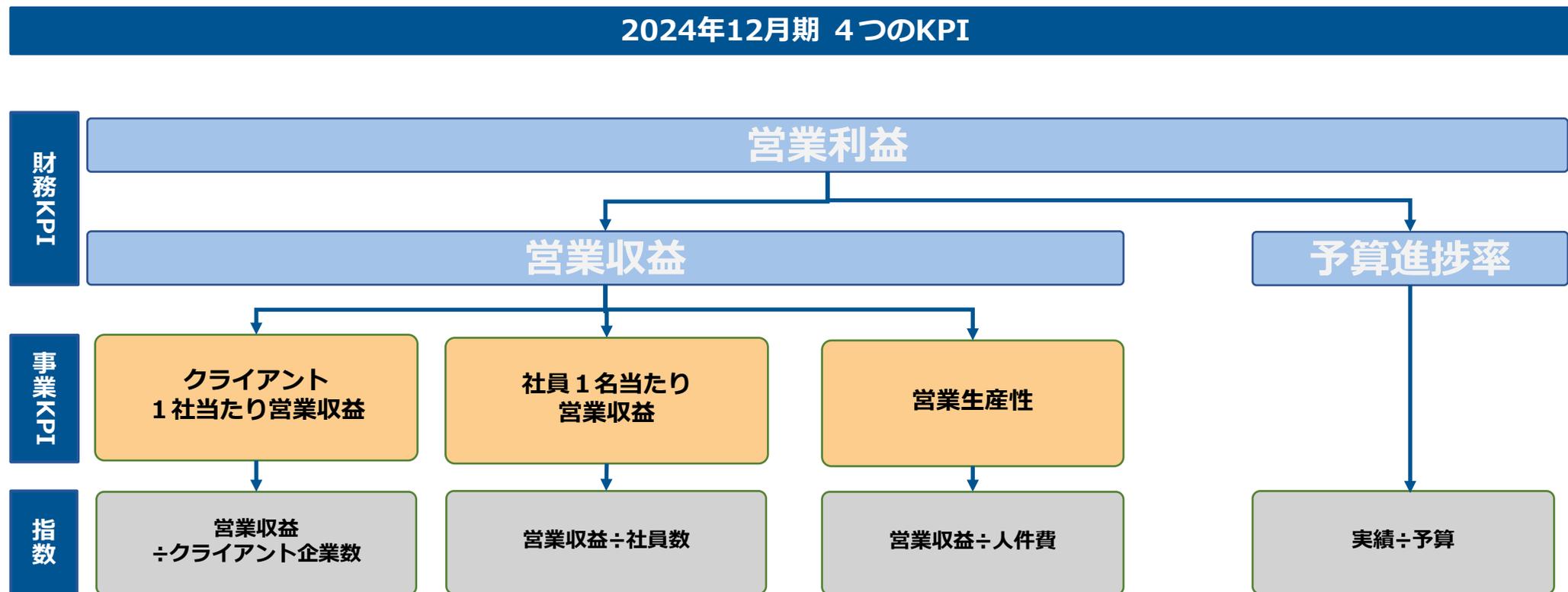
注)2024年12月期は決算訂正を行い、2026年3月31日に訂正報告書を提出しております



03
KPI

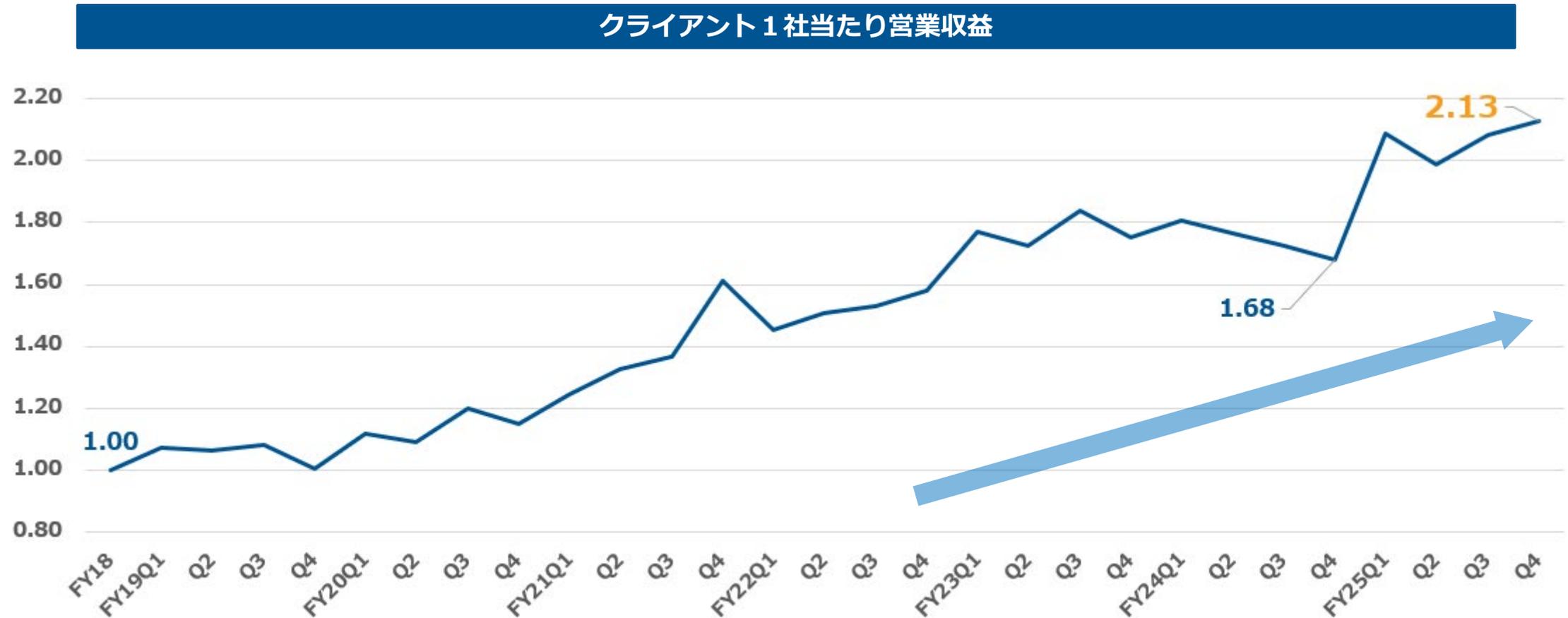
KPI

前期から継続して4つのKPIを設定



KPI – クライアント 1 社当たり営業収益

上昇傾向は継続。当期は中大型案件獲得への注力やSB協業の拡大により2.13まで上昇

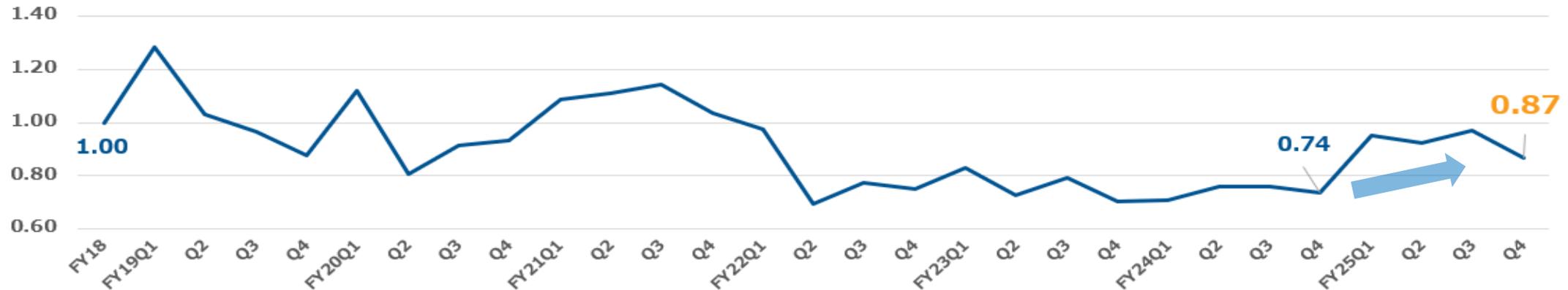


(注) 2018年度の各四半期を基準値「1.00」として各年度の各四半期の指数を算定

KPI – 1 社員当たり営業収益・営業生産性

1 社員当たり営業収益は生成AIの活用等による業務高度化により改善傾向。営業生産性は、昨年度の人件費削減の反動の影響がありつつも、当期は効率化等により生産性を維持

1 社員当たり営業収益



(注) 2022年12月期の第4四半期よりソフトバンク株式会社への出向社員が増加したことにもとない、以降、出向社員を除いて算定

営業生産性 (営業収益 ÷ 人件費)



(注) 2018年度の各四半期を基準値「1.00」として各年度の各四半期の指数を算定

04

2026年12月期 業績予想について

2026年12月期の業績予想について

当社は、2026年3月27日開示の「第三者委員会の調査報告書の受領に関するお知らせ」のとおり、当社は第三者委員会より調査報告書を受領しております。

このたびの提言を真摯に受け止め、取締役会への情報集約及び報告ルートの見直し、監査等委員会・内部監査部門・会計監査人の連携強化、内部通報制度の見直し及び実効性確保、並びに銀行取引システムに係る権限管理及びモニタリングの強化を進めることにより、内部統制システムの再構築及び信頼回復に努めてまいります。これらの施策の財務面・経営面への影響を精査し、より実効性の高い再発防止策を反映させた新たな事業計画の策定を進めている段階にあるため、現時点では合理的な業績予想の算定が困難であると判断し、未定とさせていただきます。

今後、業績予想の公表が可能となった段階で、速やかに開示いたします。皆様には多大なるご心配をおかけいたしますが、一日も早い信頼回復と企業価値の向上に邁進してまいります。

本資料に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料には、監査法人による会計監査や四半期レビューを受けていない情報が一部記載されています。

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における当社の判断及び仮定並びに当社が現在利用可能な情報に基づき判断したものであります。そのためマクロ環境や当社の関連する業界動向等により変動することがあります。従いまして、実際の業績等が、本資料に記載されている将来の見通しに関する記述と異なるリスクや不確実性がありますことをご了承ください。

